



文部科学省「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」に採択

文部科学省の平成20年度「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」に、関西大学「ソシオネットワーク戦略研究センター」(拠点代表者：鶴飼康東 関西大学ソシオネットワーク戦略研究センター長)が採択された。情報技術の政策研究を目的として設立された関西大学ソシオネットワーク戦略研究センターを中心に、「ソシオネットワーク戦略」という新しい学問分野を創設し、豊富な学術データの蓄積と国際的ネットワークの形成に取り組んできたことが高く評価された。今回、14大学(14拠点)が申請し、本学を含む5大学(5拠点)が採択された。

関大前駅南出口からのエスカレーターが完成

阪急電鉄「関大前」駅南出口から100周年記念会館までの坂道にエスカレーターを設置する工事が完成し、4月26日に通り初めが行われた。これによって丘陵地に広がる千里山キャンパスへのアプローチが改善された。

エスカレーターは並列2機が2カ所に合計4機設置され、運行時間は通常授業時の8時から18時30分まで。ただし、朝の混雑緩和のために11時までは全機とも上りのみとなっている。



阪急電鉄「関大前」駅南出口から100周年記念会館までの坂道に設置されたエスカレーター

関西大学のトイレに「KUエコロール」登場

関西大学では、環境に配慮し、大学が排出する機密文書をリサイクルしてトイレトイレットペーパーとして再利用している。機密文書とは、試験問題や答案用紙、会議資料などで、これまでリサイクル紙として溶解処理されていたが、オリジナルトイレットペーパーとして生まれ変わるようになった。その名も「KUエコロール」。千里山キャンパスや関大北陽高校などの学舎で、5月から使用されている。

本学のエコキャンパスへの取り組みはホームページにも掲載。
http://www.kansai-u.ac.jp/mt/archives/2008/05/post_35.html

関西大学北陽高等学校が開校 第1期生492人が入学



学校法人関西大学と学校法人福武学園が4月1日に合併し、関西大学北陽高等学校が開校した。前日の発足記念式典には、関西大学の役員や北陽高校の教職員、同窓会、PTA役員などの関係者、135人が参加。男女共学校として新しくスタートするにあたり、教室や食堂など、校舎内外が大幅にリニューアルされ、学びの環境が一段と整った。

新入生を迎えた同校は、4月6日に入学式を挙行了。募集人員280人を大幅に上回る、総勢492人の第1期生が入学。新入生には入学後すぐに、郡上高原(岐阜県)で2泊3日の宿泊研修を実施した。文武両道の関大北陽生として自覚を持ち、今後の高校生活を謳歌するための過ごし方などについてガイダンスを行った。

早稲田大学と教育研究協力に関する協定を締結 記念にアメリカンフットボール交流試合を開催

関西大学と早稲田大学は、教育研究協力に関する協定を締結し、5月13日にリーガロイヤルホテル東京で調印式を行った。教育・研究領域における学術交流を通じて、レベルを一層高めるとともに相互にグローバルな視点から教育・研究、社会連携活動を行うことを目的としている。

また、1940(昭和15)年から始まった日本アメリカンフットボール史上最古の東西対抗戦であり、今年で第63回を迎えた両校の定期戦を、交流協定締結の記念試合として位置づけて、6月8日に千里山キャンパスで開催した。



ベナントを交換する両校の関係者たち